

## オープンサイエンス時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて ～ 2030 年に向けた大学図書館のロードマップ ～

2023 年 1 月に公表された「[オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について](#)」（審議のまとめ、科学技術・学術審議会情報委員会オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会）において示されたように、「大学図書館は、情報やデータ、知識が記録されることを前提として、大学における教育・研究の文脈においてそれらの発見可能性を高め、アクセスを保証し、また利活用できるようにすることで継続的に知が再生産されるようなシステムを維持するために存在」している。この本質的な認識の下、大学図書館は、これまでも技術・社会の変化に対応し、この本質を実現するための変革を行ってきたが、これからも大学が新たな知の生産という使命を果たしていくため、今日の大学図書館には、オープンサイエンスとデータ駆動型研究の推進とともに、学修者本位の教育の実現に即した機能的変化が求められている。

この変化に対応して実現すべき大学図書館が「デジタル・ライブラリー」<sup>1</sup>である。「デジタル・ライブラリー」の実現は、オープンサイエンスを実質化し、データ駆動型研究の基盤を提供するとともに、我が国における研究成果の社会実装と研究力強化に寄与するものである。また、多様化する高等教育とその学修者のニーズに対応して、いつでも、どこでも学ぶことを可能にし、学修者本位の質の高い教育・学修の実現に資するものでもある。

昨年発足した「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会<sup>2</sup>では、まずこのような「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた当面の目標である「2030 年の大学図書館の望ましい姿」を具体的に描き、「[実現に向けた課題](#)」<sup>3</sup>を整理した。その上で、大学図書館のみならず、国、大学、大学図書館関係団体等が目標の達成に向けて、何に取り組み、段階的に何を実現していくべきかを[ロードマップ](#)<sup>4</sup>の形で示した。

<sup>1</sup> ここで言う「デジタル・ライブラリー」とは、1990 年代に盛んに議論された「電子図書館」構想を更に進めたものであり、コンテンツのデジタル化を経た結果として意識される、運営やサービス、職員の知識やスキルの変革などを内包する形で自身のDXを推進する大学図書館のことを指す。

<sup>2</sup> 当検討会は、「[オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について](#)」（審議のまとめ）において示された今後の大学図書館の理念と方向性を踏まえ、より具体的な取組として明示するために文部科学省研究振興局長の諮問機関として設置されたものであり、2023 年 6 月より「デジタル・ライブラリー」実現にかかる課題について継続的に検討を行ってきた。

<sup>3</sup> 新しい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて検討すべき課題（令和 6 年 7 月 1 日「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会）

<sup>4</sup> 「2030 デジタル・ライブラリー」推進に向けたロードマップ（令和 6 年 7 月 1 日「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会）

このロードマップにおいては、

- ・ **【1】 支援機能・サービス**：支援・サービスの基盤としての「コンテンツのデジタル化」と「オープンアクセス」  
これまでのコンテンツとこれから生み出されるコンテンツの効果的な利活用に向けたデジタル化とオープン化を促進すること
- ・ **【2】 場**：「ライブラリー・スキーマ」に基づく機能の具体化  
大学図書館の論理構造としての「ライブラリー・スキーマ」の明確化とそれに基づく大学図書館機能を具体化し実装すること
- ・ **【3】 人材**：求められる「スキル・育成」とそのための「制度」  
オープンサイエンスに係る支援等、今後求められる新しい機能に対応しうる人材の育成と、育成された人材の適切な配置を実現すること

を優先的に取り組むべき領域とした。その上で、特に大学図書館に求められる新たな機能や取り組みを複数の大学やその他機関とともに整備・運用する等、一大学の図書館に閉じない形で連携・協力することを、「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた有力な手段として位置付けている。なお、このロードマップは、今後の大学図書館を取り巻く状況の変化を踏まえて、適宜改訂を加えていくべきものである。

最後に、ここに挙げられている課題は、大学の教育・研究全体の文脈の中でとらえられるものであり、各大学の大学図書館だけで取り組むものではない。これらの課題への対応は、大学全体の課題として大学執行部にも認識されなければならない、大学全体のマネジメントの下での大学図書館以外の部署との協働・連携が不可欠である。このロードマップを手掛かりとして、各大学において、それぞれのミッションにふさわしい大学図書館の実現に向けた取り組みがなされることを期待する。

2024 年 7 月 1 日

「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会